CONNECT

天理大学広報誌

Vol. 03

発行元 天理大学 ― 編集 天理大学入学部広報課 ― 住所 〒632-8510 奈良県天理市杣之内町1050 ― TEL 0743-63-9006 ― 発行日 2025年8月 号数 3号（Total 257号）

TENRI UNIVERSITY

伝えたい、国際体験の魅力。

今や世界中の人やモノ、情報が、国境を越えてつながり合う時代。
お互いを知り、異文化を理解する「国際性」は、どの分野でもますます求められる
大切なスキルの一つになっています。そして国際性を身につける経験は、
自分をぐんと成長させてくれる最高のチャンスです。
多様な文化や価値観にふれ、広い視野と柔軟な発想を手に入れると
人生はとても豊かで明るくなる。
そう実感する経験者の方々に、国際体験の魅力を語っていただきました。

CONNECT

日本語教師のインターンで得た、モンゴルの未来に貢献する仕事。

在学中は、ハワイ大学マノア校「NICE」プログラムで6カ月の認定留学をはじめ、国際参加プロジェクトへの参加、外交官養成セミナーの受講、世界柔道選手権や東京オリンピック・パラリンピックでの通訳と、さまざまな国際体験に取り組みました。たくさんのことを学びましたが、最も大きな学びは「人とのつながりの温かさ」です。留学中には学費の支援と励ましをくれた家族、常に助けてくださったホストファミリー、現地の大学生や共に学んだ留学仲間、そして天理大学の先生方など多くの支えがありました。たくさんの方々に支えていただいたからこそ、今度は私が日本語教員として誰かを支えたいと思うようになり、今の私があります。4年次生の夏に日本語教師のインターンに参加したことをきっかけにモンゴルで働くチャンスをいただき、現地での生活も3年目を迎えようとしています。今私にできることは、1人でも多くの学生を日本に送り出すこと。「日本で学んだ知識や技術を母国へ持ち帰り、モンゴルの未来に貢献したい」――そんな彼らを応援すること、そして、私を受け入れてくれたモンゴルの人と国への恩返しが私の役割だと思い、日々精進しています。

国際学部
外国語学科
英米語専攻
卒業

谷岡 ほのかさん /
新モンゴル学園日本語教員

「文化的他者」から「身近な人」へ。研究対象のマオリと理解を深め合う喜び。

学生の時から現在に至るまで、ニュージーランドの先住民・マオリの文化、とりわけ歌と踊りに着目し調査に取り組んでいます。そのため定期的に現地に足を運び、フィールドワーク中はマオリのご家庭に滞在します。文化人類学では、異文化を生きる他者のことを「文化的他者」と表現しますが、まさに私にとってマオリの家族は「文化的他者」であり、逆もまた然り。お互いの言動が理解できずぶつかることもあるのですが、その度に対話し理解が進むと「文化的他者」から「身近な人」へと変化していくのです。「私の常識が常識ではない」世界に身を置き、価値観を揺さぶられたからこそ、異文化に対する謙虚さや寛容さが必要になり、視野の幅を広げられたのだと実感しています。

土井 冬樹 /
国際学部 国際文化学科 講師

旅行では知り得ない学び。タイのスラム街で触れた「幸せの形」。

2025年2月、国際参加プロジェクトを利用しタイで2週間のボランティア活動に参加しました。印象的だったのが、スラム街を訪れた時にみなさん笑顔で優しく接してくださったこと。どんな環境でも、日常の中の幸せは心の余裕から生まれるんだと感じました。旅行ではできない経験を通し、日本とは全く異なる価値観に触れた貴重な機会となりました。

鈴木 陽菜さん /
人間学部 人間関係学科
社会福祉専攻
3年次生

高度な英語力、圧倒的に広い視野、豊かな人脈。飛躍的に成長したアメリカでの9年間。

高校から留学し、カリフォルニア大学バークレー校を卒業、同大学サンタバーバラ校大学院で修士号を取得しました。大学院時代は、研究の厳しさを学ぶと同時に、高度な英語力を身につけられた濃密な歳月でした。アカデミックな部分でも自信につながりましたし、多様性を受け入れ、インクルーシブなスタンスを誰に対しても示せる素地や、圧倒的な広い視野を身につけられたのも、アメリカで長年過ごしたからだと実感しています。国際性は、今や多くの分野で社会人に強く求められるスキル。そこで一歩先んじた経験を積めるのが本学です。皆さんが陽気に明るく、よりしなやかに人生を舵取りするために、豊かな人脈を築き、叡智を身につけ、経験値を積むための留学制度や国際体験が出来るさまざまな課外活動が本学にはあります。外国語を現地に行って肌感覚で学び、異国の人々とふれあう機会は一生の宝であり、自分を飛躍的に成長させる絶好の機会です。自分の心の幅も広がり、柔軟性や寛容性も身につきます。ぜひ、そんな夢の実現を目指して天理大学へお越しください。

永尾 比奈夫 /
天理大学 学長

カナダ、そしてアメリカへ。マイノリティだからこそ学べることがある。

在学中にはカナダへの交換留学、卒業後はアメリカへの大学院進学や天理教アメリカ伝道庁での勤務など、8年近く海外生活を送りました。海外では、当たり前だと思っていたことが決してそうではないと気づかされる場面が多々あり、自分が「マイノリティ」であることを痛感するのですが、「こうあるべき」という固定観念から解放される不思議な感覚でもありました。今まで見えていなかったものが見えてくるようで、視野が広がるとはこういうことかと感じます。この学びは周囲に対してだけでなく、自分自身への理解も深めてくれました。例えば短所だと思っていたことが個性として捉え直せたり、新たな可能性に思えたりしたのです。違いに気づくことは、巡り巡って自分自身を深く知る大きな学びでした。

国際文化学部
ヨーロッパ・アメリカ学科
英米語コース
卒業

渡辺 俊 /
天理大学
国際交流センター室 課長

※学生の学部・学科などの所属表記は入学当時の名称となります。

異文化に触れる環境に飛び込んだ、天理大学の在学生たち。

日本でできる国際体験×多言語×学内

夏期日本語講座で留学生とバーベキュー。

日本で育む、国境を越えた友情と成長の夏。世界中の友だちと話したい、がモチベーションに。

天理大学が毎年開催する夏期日本語講座で、今年3度目のカウンセラーを務めた鈴木さん。この講座は、天理大学の海外交流協定校から学生たちが本学に集い、2週間生活を共にしながら、日本語学習やさまざまな日本文化に触れる学術交流活動です。

「1年次生の時、先輩方の話を聞いて面白そうだなと感じ参加してみたら、体験したことすべてが楽しい思い出で、2年次生、3年次生と参加させていただきました。カウンセラーは留学生たちと一緒に寝泊まりしながら、彼らの日本語学習だけでなく配膳の手伝いや掃除など、生活面もサポートします。午前中の授業で日本語の勉強をお手伝いしたら、午後はフリータイム。茶道や着付けなどの文化体験、クラブ活動のほか、大阪・関西万博に足を運んだり、歴史ある奈良の街を散策したりする留学生に同行する場合もあります」。

最初は時間にルーズな学生さんに手を焼くこともあったという鈴木さん。ですが経験を重ねるうちに早めの時間を伝えるなど柔軟に対応し、円滑なコミュニケーションを図る工夫も身に付けたといいます。

「相手の文化を尊重し、おおらかに受け入れる力がグッと伸びたと感じます。また、今年は9カ国・地域の留学生と生活しているので、私は英語だけでなく専攻のスペイン語や独学している韓国語で話す絶好の機会でした。カウンセラーはサポートするだけでなく、日本にいながらにして国際交流ができ、お互いに理解し学び合い、世界中に友だちができるのが最大の魅力ですね。韓国語に興味を持ったのも夏期日本語講座がきっかけ。将来は日韓関係に関わる外交の仕事がしたいです」と、鈴木さんは目を輝かせて語りました。

国際学部 外国語学科 スペイン語・ブラジルポルトガル語専攻 3年次生 鈴木 香音さん

柔道×JICA海外協力隊×エジプト

練習最終日にナショナルチームの選手との集合写真。

英語にも海外にも苦手意識があった。それをくつがえしたエジプトでの挑戦。

「ずっと英語が苦手で海外にも興味がなかったんです」。そう話すのは、JICA海外協力隊の一員として今年2月中旬から約1カ月間、エジプトに短期派遣された大賀さん。柔道部に所属する大賀さんの任務は、同国柔道ナショナルチームの強化でした。

「前年に参加した先輩方の報告会に参加してエジプトの魅力に触れ、楽しそうだなと。ナショナルチームの方と練習できるのも貴重な機会だし、1カ月間なら挑戦してみようと思い立ちました。治安が少し不安でしたが、実際は現地の方々の親切さに助けられることが多かったです。英語で少しずつコミュニケーションが取れるようになると、初めて英語が好きだと思えるようにもなりました」。

カルチャーショックも新鮮だった、と大賀さん。「ラマダンの期間は練習時間と生活が昼夜逆転したり、少しの雨で洪水になったりと戸惑うことも多かったのですが、最終的にはチームの方々とおしゃべりできるほど英語力が上がり、体格の大きな海外選手との組み手なども体得しました」と振り返ります。

「今後、海外の選手と話すためにも英語力が必要だと実感して、帰国後は英語の勉強をするようになりました。また、日本での生活のありがたさを再認識し、日々感謝の気持ちを忘れずに過ごすよう心がけています。海外には必ずまた行きたいと、今では強く思っています」。

体育学部 体育学科 3年次生 大賀 陸生さん

※学生の学部・学科などの所属表記は入学当時の名称となります。

教える留学×チャレンジ後押し制度×フィリピン

国際学部 外国語学科 英米語専攻 4年次生 白石 優麗さん

英語で、日本語を教える。フィリピンで“伝える喜び”を実感。

留学先で日本語を教えるという、少しユニークな体験にチャレンジした白石さん。「天理大学の留学制度を利用して、フィリピンのラ・サール大学附属語学学校に3カ月間の認定留学をしました。そこで、日本に興味のある現地の学生に日本語を教えてみないかと声をかけていただいたんです。30～40人の生徒さんに向けて週1回の授業を、6週間担当しました」。英語を使って日本語を教えるという経験の中で、英語の必要性と、指導の難しさを改めて感じた白石さん。「授業では生徒のレベルに合わせた日常会話やアニメのセリフを取り入れ、日本語学習の楽しさを伝えました。喜んでもらえると、こちらも嬉しかったですね」。

帰国後、友だちから性格がオープンになったと言われることが増えたといいます。「フィリピンの人は、通りすがりに褒め言葉を伝えてくれたりとオープンマインド。そんな文化の違いや多様性を目の当たりにする経験の中で、たくさんの学びがありました」。

今回、3カ月の留学にかかった費用は約80万円。「そのうち24万円は奨学金を活用しました。金銭的な面でも天理大学は留学しやすいのが魅力ですが、留学中もしっかりサポートしてくれたのが心強かったですね」。

▼日本語とローマ字で授業を進める様子。

◀台湾人・ベトナム人の友達と「The Ruins」という観光名所へ。

※学生の学部・学科などの所属表記は入学当時の名称となります。

もっと届けたい!!

国際体験のリアルな声

国際体験のチャンスがたくさんある天理大学では、学部に関わらず、毎年多くの学生が留学をはじめとする国際体験に挑戦しています。Instagramの公式アカウントでは、そんな彼らのリアルな声を発信中。さらに知りたい方は、ぜひのぞいてみてください！

世界中にある協定校と
多彩なプログラム
費用面含めた
サポートも充実

挑戦する機会が
多いので
英米語学科へ。
3週間の
アメリカ留学を実現

発展途上国に建築を届けたい。
アフリカの公用語を
学ぶため編入し
留学生との交流も盛んな日々

交換留学でスペインの
提携校を選択。
宗教都市で歴史と宗教を学ぶ

国立台湾師範大学で
台湾の政治や歴史を学ぶ。
中国語以外の言語も成長！

いろんな国の
学生と交流でき
授業は少人数制で
アットホーム

半年間のフランス留学で
語学もスポーツも満喫！

生きた韓国語を
自分のものに。
ソウルの大学へ交換留学

国際交流センター室の
丁寧なサポートと
充実の奨学金制度で
オーストラリアへ認定留学

方言にも触れたくて
1年間韓国の釜山大学校へ

フィリピンの大学へ留学。
英語を使い一人暮らしという
経験でメンタルが成長

学内異文化交流スペース
iCAFéで
留学生と日常的に
コミュニケーション

活躍の場を自ら切り拓き、輝く。
天理大学から羽ばたいた卒業生のいま。

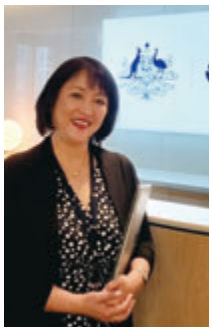
夢を持ち続けることが、思い描く人生に近づく道。

本学外国語学部英米学科（現 英米語学科）を卒業後、
関西経済連合会、マッキンゼー・アンド・カンパニーを経て
オーストラリアの日系企業の社長秘書へ。
現在、オーストラリア連邦政府金融庁の
役員秘書を務める森 三枝子さんに国際体験で得られるもの、
またその魅力についてお聞きしました。

アジアカップ女子ホッケー選手権大会にて。

天理大学外国語学部英米学科（現英米語学科）卒業後、関西経済連合会、マッキンゼー・アンド・カンパニーに勤務。その後シドニーにて、KDDIオーストラリア及びJTBオーストラリアで社長秘書として15年間従事。2010年1月よりオーストラリア連邦政府金融庁（APRA）にて役員秘書。

森 三枝子さん



“未知なこと”に惹かれて いろんな経験を積んだ学生時代。

「3歳年上の姉が高校生の時にアメリカに留学して、精神的に成長して帰ってきた姿を見て憧れました。それで私も高校2年生の時に1年間オーストラリアに留学しました」。

そう振り返るのは、現在、オーストラリア連邦政府金融庁（Australian Prudential Regulation Authority:APRA）で役員秘書を務める森 三枝子さん。留学中は壁にぶつかる事もありながら、若さ特有の吸収力で多くを学び、世界がぐんと広がったといいます。

「当時は“みんなが知っていることより未知なこと”に、いつも心が惹かれていました」と楽しそうに笑う森さん。帰国後は本学外国語学部英米学科（現 英米語学科）に入学し、語学劇や短期留学、日米学生会議への参加、スポーツの国際大会や国際見本市での通訳にチャレンジしたといいます。

「とにかくいろんなことを経験してみて、何が自分に合っているのか、卒業後はどういう道に進みたいのかということを知りたかったのだと思います」。

たくさんの経験を通して 自分の興味や能力を知ることができる。

大使館や領事館で働く夢を抱いていた森さんでしたが、大学卒業後は関西経済連合会に就職。配属された企画部で充実した社会人生活を送る毎日でしたが、仕事においてはほとんど英語を使う機会がないため、自分が今まで勉強してきたことやそれまでの経験が日に日に遠ざかっていくようで残念でした。

「次に就いたのは外資系経営コンサルティング会社のマッキンゼー・アンド・カンパニーでのバイリンガル・セクレタリーの仕事でした。バイリンガル・セクレタリーは、いわゆる英語と日本語を両方使って仕事をする秘書のことです。秘書の経験がないまま採用された私は、個人主義が徹底している社風の中で、何もかも自分で学ばなければならず、大変苦労したのを覚えています。そんな中で3年間がむしゃらに働いた後、

ここらで一息ついて、多忙な毎日を離れてこれからの人生について考えてみようと、シドニーに行くことを決めました。シドニーでは、初めての一人暮らしをしながらビジネスカレッジに通い、ゆとりのある時間を過ごしました」。

仕事から離れて過ごしたこの時期は、森さんにとって人生とは何かを考える大切な時期になったといいます。

「数年後、再び仕事をすることになり登録した職業斡旋エージェントから、『秘書』の仕事を打診されました。そして、それから日系企業2社、KDDIオーストラリアとJTBオーストラリアにて15年間社長秘書として勤務することに。あれほど自分に合わないと思っていた『秘書』の仕事が、この時私に異国で働くチャンスを与えてくれたのです。人生何事も経験しておくべきもの。『秘書』の経験があったことに感謝しました」。

再び始めた仕事を通じて、秘書業務のやりがいを深く知ったという森さんは、その後オーストラリア政府機関や公共機関での役員秘書へ応募。しかし、オーストラリアの組織における役員秘書職は「母国語が英語」でないと就けない業務のため、何度も最終選考まで行っては、採用されずにいました。しかし、「不可能でないことを証明するために頑張りたい」と強い意志で採用をつかみとり2010年1月から、現職のオーストラリア連邦政府金融庁にて役員秘書の仕事に就くことになりました。

「100名以上の応募者の中から、英語を母国語としない私を選んでくれた上司のその勇気と決断に応えたいという想いで頑張ってきました。業務以外で大切にしているのは、自分の考えや思っていることを言葉に表して相手に伝えること。誰もが異なる文化を理解しているわけではないので、言葉によるコミュニケーションがいかに大切かを実感しています。それから自分は日本人代表だという意識も大事にしています。日本人職員は私だけなので、私の言動を見て、“日本人はこう考えるのか”、“こうするのか”という目で見られていることを感じています。常に日本代表として恥ずかしくない言動を心掛け、日本のよいところを知ってもらうように努力しています」。

1年間お世話になったホストファミリーと一緒に。

夢を持ってそれを追い続けると いつかきっと望んでいた場所に 立っている自分を見つけられる。

人生は山あり谷ありが当たり前だと森さんは言います。「若い時は何でもすぐに『もうダメだ』と思いがちです。それは、まだ人生経験が少ないからです。でも、人間は本当は思っているより強くできていて、立ち直る能力を持っています。何をやってもダメな時は誰にでもあります。しかし、ダメな時もあれば、よい時も必ずやってきます。そのタイミングをしっかり捉えて機を逃さないように心がけて欲しい」と、森さんは力強い口調で話します。

「何よりもお伝えしたいのは、夢を持って追いかけてほしいということ。夢を持つことは生きる原動力につながります。その時に経験できることを一生懸命に取り組む、そして前向きに生きる。この姿勢を忘れずにいると、いつしか自分が望んでいた場所に、自分の夢に近づけると思います。だからどうか、自分の人生を諦めないで、夢に向かって挑戦し続けてください。応援しています」。

とにかく多くのことに挑戦した大学時代。

大学時代、いろんなことに挑戦する毎日を過ごしました。中でも印象に残っているのが、2年次生の夏休みにファッション誌の海外特派員として、サンフランシスコへ短期留学したことです。アメリカの文化や生活体験を写真と共にレポートするため、いろんな人と接し、いろんな場所へ足を運びました。もう一つは3年次生の夏休みに参加した日米学生会議。アメリカの学生たちと意見を交わしながら、日本中を回った1カ月は、異なる価値観を受け入れ、物事を多面的に捉えて自分の考えを言葉で伝えることの大切さを学んだ日々でした。それぞれの経験は、表現する場は違えど自分の考えを言葉にして相手に伝えるということにおいて、現在の仕事で大変役に立っています。

▲日米学生会議にて。

「全員」留学できるのが、天理大学

天理大学は25の国と地域、55大学と学術交流協定を締結。留学がしやすいことに加え、奨学金も充実。例年、希望者「全員」が留学しています。

POINT.1 世界中に協定校

Europe
- ●キーウ大学［ウクライナ］
- ●ビシケク国立大学［キルギス］
- ●サラマンカ・ポンティフィシア大学［スペイン］
- ●サンティアゴ・デ・コンポステラ大学［スペイン］
- ●マールブルク大学［ドイツ］
- ●ケルン大学［ドイツ］
- ●オルレアン大学［フランス］
- ●コインブラ大学［ポルトガル］
- ●モスクワ言語大学［ロシア］
- ●サハリン国立大学［ロシア］
- ●ロンドン大学東洋アフリカ研究学院［イギリス］
- ●サラマンカ大学［スペイン］
- ●フリブール大学［スイス］
- ●天理日仏文化協会（エコール・ド・パリ）［フランス］
- ○天理日独文化工房（サテライトオフィス）［ドイツ］

North America
- ●マレー州立大学［アメリカ］
- ●カリフォルニア州立大学ロングビーチ校［アメリカ］
- ●オハイオ州立大学［アメリカ］
- ●ニューヨーク市立大学リーマン校［アメリカ］
- ●リジャイナ大学［カナダ］
- ●プエブラ栄誉州立自治大学［メキシコ］
- ●インディアナ大学［アメリカ］
- ●サギノ・ヴァレー州立大学［アメリカ］
- ●ウエストヴァージニア高等教育政策委員会［アメリカ］
- ●ハワイ大学マノア校［アメリカ］
- ●ニューヨーク天理文化協会（ニューヨークキャンパス）［アメリカ］

South America
- ●バジェ大学［コロンビア］
- ●サンパウロ州立パウリスタ大学［ブラジル］
- ●パラナ連邦大学［ブラジル］

Oceania
- ●グリフィス大学［オーストラリア］
- ●キャンベラ大学［オーストラリア］

Asia
- ●バジャジャラン大学［インドネシア］
- ●韓国外国語大学校［韓国］
- ●江原大学校［韓国］
- ●釜山大学校［韓国］
- ●嶺南大学校［韓国］
- ●東国大学校［韓国］
- ●チェンマイ・ラーチャパット大学［タイ］
- ●マハーサーラカーム大学［タイ］
- ●中国文化大学［台湾］
- ●国立台湾師範大学［台湾］
- ●慈済大学［台湾］
- ●国立台東大学［台湾］
- ●国立台湾大学文学院［台湾］
- ●文藻外語大学［台湾］
- ●華南師範大学［中国］
- ●北京師範大学［中国］
- ●蘇州大学［中国］
- ●ブルネイ・ダルサラーム大学［ブルネイ］
- ●マカオ大学［マカオ］
- ●リア外国語大学［インドネシア］
- ●韓国体育大学校［韓国］
- ●台湾首府大学［台湾］
- ●静宜大学［台湾］
- ●トリブバン大学国際言語キャンパス［ネパール］
- ●エンデランカレッジ［フィリピン］
- ●ハノイ大学［ベトナム］
- ●ダナン総合大学［ベトナム］

- ●交流協定校・交換留学実施校
- ●交流協定校
- ●天理大学海外分校
- ○天理大学サテライトオフィス

欧米だけが世界じゃない 生活費が比較的安い地域も選べる

英語圏への留学というと、アメリカ、イギリス、オーストラリアを思い浮かべがちですが、英語が公用語として話される国は世界に多数あります。英語留学ならフィリピンやブルネイ、スペイン語留学ならスペインだけでなく中南米など、生活費を抑えやすい国や地域で学ぶこともできます。世界中のさまざまな大学と協定を結んでいる天理大学だからこそ、学生はそれぞれの目的に応じた多様な留学先、留学方法を選ぶことが可能です。

POINT.2 チャンスが多い

「交換留学」「認定留学」で夢が広がる

天理大学には「交換留学」と「認定留学」の2つの留学制度があります。学内選考が必須の「交換留学」では、留学先への授業料が原則免除されるほか、各種奨学金も充実しています。より自由度の高い「認定留学」では、希望するエリアや教育機関を選べるため、自分にあった留学先や時期をカスタマイズすることが可能です。もちろん奨学金もあります。

	留学先	期 間	留学資格	奨学金
交換留学	本学の協定校 **19カ国・地域** **38大学**が対象	**1年**または**6カ月** （**2年次以降**） ※過年度生は対象外	選考試験 あり	**年額30万円**※1 ＋ 協定校の 授業料原則免除
認定留学	希望する大学 認定留学先として 認められた場合	**1年**または**6カ月** （**2年次以降**） ※過年度生は対象外	選考試験 なし	留学先 授業料相当分 （**年額上限50万円**）※1

＋ 留学生奨学金〈返還不要〉**月額3万円**（年額36万円）**5名枠**

※1 留学期間が1年間の場合の奨学金支給額となります。半年間の留学の場合は、半額相当になります。

POINT.3 奨学金は、全員に支給

返済不要の奨学金が魅力
成績優秀者はさらに年額36万円支給も

毎年原則として長期留学する学生全員に奨学金を支給しています。（過年度生は対象外）また、交換・認定留学する学生のうち、特に学業や人物が優秀と認められた5名に1年間月額3万円を追加で支給する奨学金制度も設けています。

留学以外の国際交流プログラムも盛ん

国際参加プロジェクト

「建学の精神」に基づく「他者への献身」を、国際的な舞台で実践していく本学独自の海外ボランティアプログラム。これまでタイやカンボジア、ネパールなどさまざまな国・地域を訪れ、衛生教育指導や情操教育支援への取り組み、被災地支援などさまざまな活動を行っています。事前準備や現地での活動、帰国後の振り返りを経て、大きく成長することができます。

プログラムの流れ

1. **事前準備**
   担当教員の指導のもとで事前学習、創意工夫を凝らしながら準備に励む
2. **現地での実践**
   支援活動を通じ、日本での生活が決して当たり前ではないことを実感
3. **帰国後**
   振り返り作業を経て、世界が抱える問題とより真剣に向き合うように
4. **卒業後**
   多様なかたちで国際舞台へはばたき、国際協力への貢献をめざす

キャンパス内での異文化交流

iCAFé（アイ・カフェ）/ チューター制度

iCAFéは日本人学生と留学生、教職員が気軽に会話を楽しめる異文化交流カフェ。世界の本や漫画が閲覧可能で、ネイティブの学生が担当する言語レッスンにも無料で参加できます。留学生の生活を日本人学生が1カ月間サポートするチューター制度も好評です。

国際スポーツ交流実習

スポーツを通じて海外で国際交流を楽しみ、異文化理解をめざします。ドイツのドイツ体育大学ケルンやマールブルク大学などで現地の学生たちと交流し、スポーツ文化や指導法の違いなどを肌で感じながら学びます。

海外インターンシップ

参加学生は海外の受け入れ先企業で約10日間の職場体験を経験し、レポートを提出。修了書の発行後、2単位を取得できます。アメリカ・シカゴの移民協会やフランス・パリの日仏文化協会、インドネシアやブラジル、ロシアの旅行会社、韓国のカフェなど各地での就労体験は、海外勤務希望の学生はもちろん、国内での就職にも役立つ有意義な経験となります。

研究室探訪

日本語を通して世界とつながる日本語教師の育成に尽力。

国際学部 日本学科（留学生対象）
教授　菊池 律之

令和6年度天理大学
「ベストティーチャー賞」受賞

――どんな研究をしていますか？

日本語の文法、そして中国語圏の日本語学習者が日本語を使うときに現れやすい誤用の分析、また日本語教師をどう育てるかなど、日本語学と日本語教育をテーマに研究しています。

**――研究が先生の人生に与えたと思うものは何ですか？
またそれをどのように社会に還元していますか？**

台湾の大学で10年以上教育に携わった経験は、今の仕事に大いに活かされており嬉しく思っています。日本語教師を目指す学生たちには、例えば日本人なら「当たり前」でも日本語学習者にとってはそうではないことも多く、学習者の理解度を把握した上で教えることが大切であることなど、外国語としての日本語を教える難しさや奥深さを感じてもらえるよう努めています。

――研究内容は、社会や世界とどのような“つながり”を生み出しますか？

日本語教師という仕事の魅力の一つは、日本語を通して世界とつながりを持てること。日本を訪れる外国人材が増加している今、国内外を舞台に日本語教師として活躍する学生が、さらに増えてくれることを願っています。

――在学生や受験生にメッセージを。

2024年に日本語教師の公的資格「登録日本語教員」が創設され、今後さらに注目を集める職業になることが予想されます。天理大学でも国内外の日本語教育機関に就職する卒業生が増えています。本学の日本語教員養成課程は、専門に加えて履修が必要な副専攻の資格課程ですが、自身の視野と将来の可能性を広げる上でも、ぜひ挑戦してほしいと思っています。

創立100周年記念企画

Flashback ― あの、歴史的瞬間。

1925年：第一歩は外国語学校として

ちょうど100年前の1925年（大正14年）、天理大学の前身、天理外国語学校が創立されました。これは、当時の天理教青年会長である中山正善二代真柱により「海外布教の先駆者養成」という明確な使命を帯びて実現したものです。中国語などの4言語の語部が開設され、全国で初めての私立外国語学校として注目を浴びました。

天理市周辺の名店とその逸品を紹介

THE 天理ゴハン

ラテンムード漂う空間でペルーの味を召し上がれ！

天理大学卒業生の笠飯幸嗣さんと、ペルー出身のミリアムさんご夫妻が腕を振るうペルー料理店。ミリアムさんが祖母から受け継いだレシピは、レモンとスパイスで魚介をマリネした「セビーチェ」や、牛肉とトマトなどを炒めた「ロモ・サルタード」などペルーの伝統的な家庭料理ばかり。食材や調味料は現地から調達するものも多く、初体験の野菜や味覚に出会えるのも楽しみの一つ。南米カラーのカラフルな空間で、異文化を満喫しませんか。

LOCAL34

［ロモ・サルタード］：¥1,500-　［セビーチェ］：¥1,500-
〒632-0036　奈良県天理市御経野町34-4
近鉄天理線・JR線／天理駅 徒歩20分
OPEN：木・金曜11:30～14:00・17:00～21:00、土曜12:00～21:00、日曜12:00～20:00
定休日：月～水曜